



# 金刀比羅春祭り



## 京丹後市 峰山 金刀比羅神社(コトヒラジンジャ)

文化8年(1811年)、峰山藩主・京極高備が讃岐の金毘羅権現の分霊を迎えました。商売繁盛・縁結び・受験の神様。秋には美しい紅葉が境内を飾ります。四国の金刀比羅宮に信仰の篤かった京極氏によって建てられました。春夏秋には御輿や山車が繰り出すお祭りが行われています。境内には、狛犬ならぬ『狛猫』がいます。少し愛嬌のある顔をしています。



## 春季大祭

金刀比羅神社春季大祭は、五穀の豊穰、殖産業の振興、漁業の海上安全・大漁満足、除災開運を祈念する祭りとして、また、京丹後の春を象徴する祭りとして内外から多くの参詣者で賑わいます。

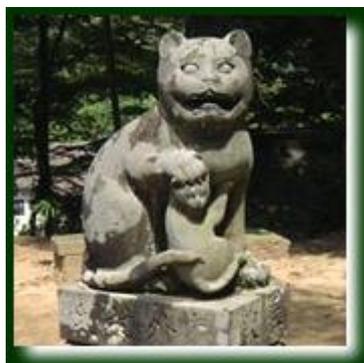
9日の宵祭りには、境内外に百余軒もの露店が連ねます。

10日の大祭は、峰山町内をはじめ京丹後内外から崇敬者が集い、厳粛に祭儀を行います。

両日とも春季大祭奉賛会による「宝籤」が催され、除災開運のご神威を授かろうと詣でる人の波は途絶えることのない様子となります。

## “ 狛 猫 ” のお話し

こんぴらさんの“狛猫”は日本唯一とも言われる 大変珍しい守り神です。



向かって左側のネコは子ネコを抱いているので、母ネコか。頭に手をのせ、「アッ」と口を開けています。右側のネコは「ウン」と口を閉じ、凜とした姿は父ネコか。

神社になくてはならない、シンボリックな存在は「狛狗」ですが、当社境内社「木島社」には大変珍しい「狛猫」が存在しています。

ではなぜイヌではなくネコなのでしょう？

丹後 峰山は、丹後ちりめん発祥の地です。今から約220年前、江戸時代享保のころ、峰山の絹屋佐平治は、断食修行までして研鑽と改良の末、ちりめん織の技法を確立しました。藩の奨励もあって、ちりめんは丹後一円に広まり、峰山はわが国有数の絹織物の集散地に飛躍しました。峰山の町には、ちりめん問屋、糸屋が軒を連ね、関西方面から来る織物業者で賑わい、周辺の村々で機織りが盛んになり、農家は絹を生産するための養蚕を営みにしたのです。

養蚕の大敵は「ネズミ」です。

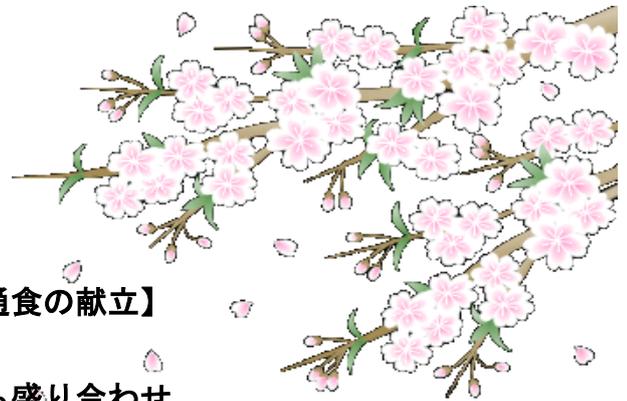
ネズミは、マユや蚕などを食い荒らし、農家に大損害をもたらします。そこでネコの登場です。ネコは、蚕が飼われている部屋にいて、ネズミを追いやります。

ネコは、養蚕になくはならない大切な存在でした。

そして、今もこの丹後峰山の地で「機織養蚕の守護神」にお仕えしているのです。

参考：丹後峰山のこんぴらさん

## 当院の金刀比羅春祭り行事食



### 【普通食の献立】

- ・ 菜飯
- ・ 天ぷら盛り合わせ
- ・ ほうれん草と菜の花のお浸し
- ・ 茶碗蒸し
- ・ 和菓子（桜花）

4月9日、当院でも金比羅春祭りの行事食を行いました。

### 患者様からのご感想

- ・ ごちそうさまでした。おいしくいただきました。昔の事を思い出しながらいただきました。ありがとうございました。
- ・ 毎食お世話になっています。今日のお心づくしありがとうございます。思わず笑顔になり、同室の皆さんと会話がはずみました。次のサプライズを楽しみにしています。
- ・ 家に帰ったような味がしました。大変おいかったです。
- ・ 今夜は金刀比羅春祭り思わぬ、ご馳走になり美味しくいただきました。私共学生時代新しい友達とお参りした事思い出しています。

各病室で、患者様の思い出の花が咲いたようです。

平成27年4月

丹後中央病院 栄養科